

介護技能実習生との面談、保護者との懇親会を終えて

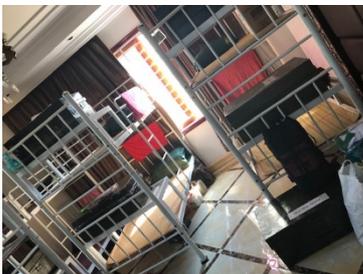
2019年2月19日
社会福祉法人 陽光
森田 瑞紀

はじめに

介護技能実習生の受け入れを間近に控えた2月11日より実習生と受入実習実施者の面談、その保護者を含めた激励会がミャンマーのヤンゴンにて開催されました。

1日目：2月11日（月）

介護技能実習生が勉強に励んでいる All Access Myanmar の研修センターを見学しに行きました。そこは昔、富裕層の人達が住まいとしていた高級住宅地の二階建て一軒家で、現在は寮として8棟あり約260名の実習生が暮らしています。一階には二部屋程あり、その部屋に二段ベッドが置いてあります。二段ベッドが置いてあるので決して広いとは言い難いですが、着替えや私物はベッ



ドの上にある箱の中だけで管理しているそうです。また、月に1回のペースで部屋の移動がくじ引きにて決まり、一定の実習生同士が仲良くなならないように、平等にたくさんの実習生と関わりが持てるような工夫がされていました。

寮を見学した後はそれぞれの実習生と受入実習実施者との初めての面談です。各法人がパンフレットやパワーポイントを用いて施設の説明を行い、質疑応答は日本語で問題なく行うことができました。施設の業務内容についてや寮について、食料や日用品の買い物、日本に行ったら食べたいもの、行きたいところなど活発な意見交換であっとい



う間の時間でした。昼食をはさみ午後は実習生とその保護者との激励会でした。各テーブルに実習生その保護者、そして私達でまずは面談を行いました。各テーブル実習生を交えて会話が弾んでいるようでした。当法人ではパンフレットとパワーポイントを使って説明をしました。日本語で作られているパンフレットを実習生が保護者に説明している姿を見

て、今まで必死に勉強してきた成果を保護者の前で発揮している素晴らしい機会に立ち会うことが出来たことを大変嬉しく思いました。実習生が通訳をしてくれたお陰で保護者の方との会話に困ることもなく、演壇で一人一人日本語で自信を持って自己紹介をしている姿を見て日本語でのコミュニケーションへの不安もなくなりました。

2日目：2月12日（火）

午前中に All Access Myanmar の研修センターを訪れ、第2期生～4期生合計73名の介護技能実習生候補者の授業の様子を視察しに行きました。パソコンの画面をテレビに映し、日本語の授業が行われていました。先生の言葉を大きな声で復唱する実習生の顔は自信に満ち溢れており、皆のやる気がとても伝わってきました。



午後には実習生がそれぞれ自分が着任する法人を案内し、寺院のパゴダに行きました。パゴダ内にはお金が入った箱がいくつも置いてあり、寄付としてお金を置いていくそうです。寄付をする理由としては、人の為に尽くすことで将来自分に返ってくるという考えがあるということで、限られたお給料、お小遣いの中で自分の為に使うのではなく、人の為にお金を寄付するということを聞いて、改めてミャンマーの方の人柄、温かさ、宗教観を身に染みて感じる事が出来ました。

おわりに

今回の面談と激励会に参加して、親元を離れて異国の地に足を踏み入れるということはとても勇気があること、覚悟があること、そしてその保護者も同じ気持ちだということを感じました。慣れない国での生活はもちろんのこと、介護の仕事に就くということが今までの人生においてどれだけ大きな選択肢だったのかを考えると、法人の一人として責任を持って介護技能実習生の仕事面や生活面でのフォローを第一に考え、良い職場環境作りなど当施設職員全体で考えていかなければならないと強く感じました。保護者の方の思いを忘れず、受入実習実施者として責任を持って教育、指導に励んでいきたいと思えます。現地では送り出し機関の All Access Myanmar アウン代表取締役社長をはじめ、アジア開発事業協同組合苗代表理事など関係者の方々には大変お世話になりました。



貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。